

令和3年度後期学校評価(教職員アンケート)

経営支援部

質問項目	前期				後期				肯定(%)		肯定値の変化	考察
	4	3	2	1	4	3	2	1	R2	R3		
①基本的な人権を侵害する言動を「見逃さない、許さない」指導を徹底し、組織的に差別やいじめ防止に取り組んでいる。	96	4	0	0	79	21	0	0	100	100	→	今後も教員一人一人が人権感覚を磨き、強く意識していきたい。
②「三吾あいことば」の指導を徹底している。	63	37	0	0	63	37	0	0	100	100	→	代表委員会での取組の成果も上がり、年々定着してきているが、今後も「三吾あいことば」に込められた一つ一つの意味を理解し、指導を深めていきたい。今年度意識の低かった項目については対策を講じる。
③アクティブ・ラーニング的視点をもって、シンキングサイクルを活用した指導法改善について積極的に研究している。	27	68	5	0	36	59	5	0	90	95	↑	シンキングサイクルを活用した指導を、本校の文化として発展させたい。
④体力調査の結果等を分析し、コロナ禍における指導方法を工夫しながら、運動能力・体力向上の取組を行っている(計画している)。	22	72	6	0	44	50	6	0	49	94	↑	新型コロナウイルス感染予防対策のため、体力向上の取組には様々な制約があったが、それらをどのように克服していくかが課題と言える。
⑤危機回避能力を育成するために、適切な教材を利用し効果的な防災教育を実施している。	56	44	0	0	47	42	11	0	94	94.5	→	新型コロナウイルス感染予防のため制約がある中で、学年ごとの校庭避難等、工夫した避難訓練を実施することができた。
⑥いじめ問題・不登校傾向児童・特別支援等について情報共有を図り、組織的に指導を行っている。	83	17	0	0	75	25	0	0	95	100	→	各校内委員会を中心として適切に運営してきたが、「学校いじめ防止基本方針」の徹底等、教員研修も充実させていきたい。特別支援教育については、事例研究を行ったことが効果的であったので、今後も実施したい。
⑦不登校・不適應児童に対し、学習室「みどり」やICTを活用した学習支援を行った(行っている)。 ※該当児童あり11学級中(前期は14学級)4:行った 2:行っていない	93	0	7	0	91	0	9	0	-	92	-	学習室「みどり」やICTを活用した学習支援等、具体的な手立てがとれるようになってきた。より効果的な運用方法を工夫していきたい。
⑧ゲストティーチャーを活用した授業実績及び予定の回数の合計(学級あたりの回数) 4:7回以上 3:5回以上7回未満 2:3回以上5回未満 1:3回未満	0	28	67	5	0	17	28	55	-	22.5	-	新型コロナウイルス感染予防対策のため、予定していた取組ができないケースもあった。ウィズコロナの中で「しかたがない」と諦めるだけでなく、「どのようにすればできるのか」を考えていきたい。
⑨校内研修、OJT、朝礼講話、INAHO執筆等、各種研修に意欲的に参加している。	35	57	8	0	25	63	12	0	90.5	90	→	シンキングサイクルを活用した指導法や動画の作成等、教員一人一人のスキルの向上は見られたが、個々の教員の意欲には差が見られた。
⑩上記の各種研修は、自己の資質・能力向上に効果があった(ある)。	33	57	17	0	29	50	17	4	100	84.5	↓	研修に対して若干の負担感があったことも考えられるが、これらの取組の意義を理解していくことは課題と言える。コロナ禍の中ではあるが、教員間のコミュニケーションは大切にしていきたい。
⑪服務防止研修に際し、当事者意識をもって受講している。	92	8	0	0	92	8	0	0	100	100	→	服務事故防止に関する意識は定着してきている。引き続き服務事故0でいきたい。
⑫週当たりの在校時間50時間以内の目標を意識して働いている。	33	50	13	4	46	50	4	0	79	89.5	↑	在勤時間の短縮への意識は高まった。
⑬週当たりの平均在校時間は 45時間未満・・・4 45時間以上50時間未満・・・3 50時間以上55時間未満・・・2 55時間以上・・・1	21	21	42	16	17	26	43	13	54.5	42.5	↓	在勤時間の短縮への意識は高まったが、教員の個人差が大きく実務は軽減されていない。「スクラップ&ビルド」の考え方でさらなる効率化を図りたい。

「該当する」→4 「おおむね該当する」→3 あまり該当しない→2 「該当しない」→1